

田村のつぶやき 第2号

2023.4.24 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

「これでいいのだ！」

『おそ松くん』や『ひみつのアッコちゃん』などの代表作（といっても高校生のみなさんは知らないかも？）があるギャグ漫画作家の故赤塚不二夫氏の、これまた代表作である『天才バカボン』をご存じだろうか？ 主な登場人物であるバカボン一家は、バカボンのパパ、バカボンのママ、パパとママの長男バカボン、次男ハジメちゃんの4人。その他の主要登場人物として、レレレのおじさんを忘れてはいけません。これまで何回もテレビアニメ化され、劇場用アニメや実写版のテレビドラマも制作されています。ちなみに、実写版テレビドラマでは、バカボンのパパを「くりいむしちゅー」の上田晋也さん、バカボンを「おかずクラブ」のオカリナさんが演じたことでも話題になりました。最近では、某格安スマホのCM（バカボンのパパ：出川哲朗さん、バカボンのママ：小池栄子さん、バカボン：芦田愛菜さん）が有名です。

ネット情報（ウィキなんか）によると、バカボンという名前の由来として赤塚さん自身は生前に雑誌などのコメントで、「バカなボンボン」、「バガボンド（vagabond）＝放浪者」、「天才＝ハジメちゃん、バカ＝バカボンのパパ、ボンボン息子＝バカボンの3人を合わせた。」とっていました。また、週刊少年マガジンでの連載第1回では、「バカボンとは、バカなボンボンのことだよ。天才バカボンとは、天才的にバカなボンボンのことだよ。」という説明文が記されていたそうです。漫画のタイトルは「バカボン」とあるものの、連載が進んでいくと、主に活躍するのはバカボンではなく、父親のバカボンのパパであり、バカボンが登場しない回もありました。

実は、バカボンの名前の由来には別の説もあります。バカボンとは梵語（ぼんご）の「薄伽梵」（バギャバン）に由来するというものです。梵語とは古代インドの言語であるサンスクリット語の異称です。「薄伽梵」とは、ヒンドゥー教では神々を指し、仏教では悟りを開いた人つまり仏陀（釈迦）を指す言葉です。バカボンのパパの決めゼリフ「これでいいのだ！」という言葉は、ある意味「すべてをありのままに受け入れる」悟りの境地を示しているのです。

和服姿に下駄履きで、常に道路を掃除している謎のおじさん。それが「レレレのおじさん」です。口癖は「お出かけですか？ レーレーのレー！」。実は、このレレレのおじさんのモデルも仏教に関係が深いとされます。そのモデルになったのが、お釈迦さまの弟子の一人で「周利槃特」（シュリハンドク）です。お釈迦さまは教えを何も覚えられない彼にほうきを渡し、毎日僧院を綺麗にきなさいと説きました。それ以来、彼は言いつけを忠実に守り、毎日掃除に専念し、最後には自分自身の因縁も掃き清め、悟りに至ったと言われています。お釈迦さまは優秀な弟子もそうでない弟子も、分け隔てなく拒否せずに受け入れました。バカボンのパパの決めゼリフ「これでいいのだ！」という言葉は、お釈迦さまの姿勢にも沿っています。

（次へ続く）

4つのC：「Challenge」（挑戦）「Collaboration」（協働）「Critical Thinking」（批判的思考）「Communication」（対話）

赤塚さんの葬儀で弔事を読んだのはタモリさんです。タモリさんは、赤塚不二夫さんの家に居候して、芸能界にデビューしました。そんな縁もあって、赤塚さんの葬儀の弔辞を読みましたが、その際に「これでいいのだ！」に表される境地について言及しています。ちなみに、この時のタモリさんが手にしていたのは白紙の原稿。見事なパフォーマンスでした。

あなたの考えはすべての出来事、存在をあるがままに前向きに肯定し、受け入れることです。それによって人間は、重苦しい陰の世界から解放され、軽やかになり、また、時間は前後関係を断ち放たれて、その時、その場が異様に明るく感じられます。この考えを、あなたは見事に一言で言い表しています。すなわち、「これでいいのだ！」と。

さすがタモリさん。「これでいいのだ！」という境地について、実に見事に説明しています。すべての事態をあるがままに受け入れることによって、「過去」や「未来」を離れた「現在」に意識がフォーカスされます。そのことによって、今の瞬間が輝きを帯び、過去や未来に起因する無駄な悩みがなくなって、目の前にある幸せを感じられるようになります。

「これでいいのだ！」 — これが天才漫画家・赤塚不二夫さんの人生を貫く最も重要な価値観だったのでしょう。

さて、ここからは先は、田村が解釈する「これでいいのだ！」です。これは、けっして「これでいいや」といった諦めや投げやりの言葉ではありません。失敗や挫折を繰り返しながらも、自らの成長のために、いろいろなことにチャレンジしていく。広い視野を持ち、多様な考え方や価値観に触れ、自分自身を創っていく。他人を受け入れる寛容さも持ちあわせた上で、ありのままの自分自身を認める全面的な自己肯定！

生徒のみなさんには、江津高校での学びを通して「これでいいのだ！」と言って本校を巣立って行って欲しいと切に願います。

【企画・情報部の新設について】

今年度から、新しい部署（校務分掌）を立ち上げました。高校教育を取り巻く環境の変化に対応するため、江津高校の魅力化、地域との連携、ICTの利活用、読書活動の充実等の業務を主管する部署です。

【面談週間について】

新年度、新学期が始まり、2週間が過ぎました。生徒諸君は新しいクラス、新しい授業にも慣れてきたところではないでしょうか。江津高校では、年4回、担任と生徒との面談週間を設けています。第1回は4月21日（金）から28日（金）の期間、授業時間を5分短縮し、生徒の悩みを聞いたり、質問に答えたり、担任からのアドバイスをしたりするための時間を確保しています。夏休みには保護者面談（3年生は三者面談）も予定しております。保護者の皆様、この期間以外にも、ご相談等ありましたら、遠慮無く学校へご連絡ください。